

2018 年度甲南学園平生記念人文・社会科学研究報告概要

研究課題	児童虐待事件における冤罪防止のための総合的研究
研究代表者	笹倉香奈（法学部 教授）
今年度助成額	1, 000, 000 円

2018 年度は毎月 1 回以上の研究打ち合わせ会議を行うとともに、研究会・勉強会を定期的に開催し、海外調査、国際シンポジウムを行うことができた。研究成果は、ウェブサイトや研究紀要を通じて随時発信した。主たる研究成果は、3 点である。

1. 学際的な研究の深化

本年度は、他領域の研究者との交流を深めることができた。本研究の中心は刑事訴訟法・刑事弁護の専門家であるが、児童福祉の実務家との定期的な勉強会を行った。脳神経外科・法医学者を中心とした医学分野の研究者・実務家とも研究会等を行い、2019 年 3 月には「小児頭部損傷研究会」を、研究代表者および 2 人の脳神経外科医を中心として新たに立ち上げることができた。

2. 国際的な研究の展開

他国との法学者・医学者との連絡を通じて、国際的な研究の展開にも貢献した。2018 年 8 月にはスウェーデン、ノルウェー、イギリスを訪問し、各国において研究や論争の中心となっている研究者・実務家への聞き取り調査を行った。

2019 年 2 月には、大阪・岐阜・東京にて連続国際シンポジウムを開催した。多数の法学・医学・児童福祉の専門家の参加を得た。

国際的な研究論文を速やかに入手し、翻訳・検討を行ってウェブサイトに掲載し、日本国内にも最新の国際的研究動向を発信することができた。

3. 研究の実践的意義・社会への影響

本研究の成果として、社会的な影響力を挙げることができる。民放連優秀賞・FNS ドキュメンタリ大賞を取得した「ふたつの正義」は、本研究を取り上げた。その他、多数のメディアが本研究の内容を報道しており、本研究に刺激された様々な出版物も公刊されている（柳原三佳『私は虐待していない』、田村和大『血腫』など）。

さらに、本研究の実践的成果として、2018 年から 2019 年にかけて、大阪地方裁判所で 3 件の無罪判決、4 件の不起訴事案を得ることができた。

以上